

## 気付けば半年

加藤 就

加藤就の朝は早い。五時五十八分に目を覚ます。最近  
は目覚まし時計を超越した人体を手に入れ、五時三十分  
には自然と起きる習慣が ついてしまった。

二十代の平均的な起床時間よりも一時間早く起きて  
何をしているのかと言えば、特に何もしていない。朝飯  
で食べる分の米が無ければ炊飯器にセットし、三分分の  
服が溜まっていれば洗濯機のスタートを押す。余った時  
間で首相が辞任したとか、テニスプレーヤーが試合放棄  
したとかにあれこれ申すネットニュースを眺め、今日の  
天気調べて着る服を決めていると、平均的な二十代が  
起きる時間になる。朝は一瞬だ。

徒然と朝は流れてしまうが、長く続いていることがた  
った一つ。それは散歩。「歩き散らす」と書いて散歩。家  
を出て近くの丘に登り、近所の神社で参拝して家にまた  
戻る。時間にして僅か十五分ピツタリ、毎日同じ道を同  
じ時間に歩くのが私の散歩だ。散らすような余裕はどこ

にもない、ただ決まった道を繰り返して、繰り返して歩くの  
だ。

「飽きないんですか。」飽きないんです。

「逆回りで歩いたりしないんですか。」しないんです。

毎日変わらずにいること、それが一日にほんの一時で  
もあれば、人は強く生きることが出来ると思う。習慣は  
人を強くする。私にとってそれは歩くことで、誰かにと  
つてそれは食べることで、別の誰かにとつてそれは唄で、  
本で、旅で、家族で。きつと皆何か携えているから、こ  
んな世の中を乗りこなしているのだろう。まあ、ヒトは  
ヒト、今日も私は歩いていく。

少し話が脱線したが、昨日こんな事があった。朝、歩  
いていると神社の前の電線にビシッと鳩が並んでいた。  
実は毎朝の事で、今日こそ何匹いるか確かめてやろうと  
思い、数を数えていた。丁度三十を超えたところで、「猫  
ですかね。」とおばさんに声をかけられた。

いや、どう見ても鳩だろう。混沌が脳裏を過ぎったが、  
どうやらおばさんは、猫と鳩が餌を巡って拮抗している  
と伝えたかったようだった。

私が言いたいことは二つ。皆いい加減誰かと繋がりがた  
い。それと、散歩はおすすめだ。

(かとう しゅう 信州大学教育学部国語教育コース四年)